

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 講師

氏名 永根大幹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年4月

### ○獣医遺伝学

生物学、分子生物学、生化学の知識を基に詳細な遺伝学について習熟する。ゲノムの定義やエピジェネティクスなどコアカリキュラムを超えた最新の科学的な知見を得る。

### ○獣医生化学実習

本科目において、生化学的な実験手法を学ぶだけではなく、実験器具の使用方法、機器の基本的取扱、グラフの作成方法、化学物質の適切な取扱方法の習得を目指している。

### ○獣医学特論I&II

研究室での少数でのゼミを通し、研究におけるPDCAサイクルの実践法を学ぶ。また、学会発表などアウトプットの準備を行う。

### ○卒業論文

獣医学特論での実践の積み重ねをまとめ、卒業論文を作成する。卒業論文の内容は外部発表を義務とする。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医遺伝学	獣医学科	必修	2年次	約140名
獣医生化学実習	獣医学科	必修	2年次	約140名
獣医学特論I	獣医学科	必修	5年次	3名
獣医学特論II	獣医学科	必修	6年次	0名
卒業論文	獣医学科	必修	6年次	0名

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

教育の目標は、「科学者としての資質を備えた獣医師」の養成である。

獣医学科では国家試験対策が重視される傾向にある。大学として国家試験合格率が重要な指標であることは否定できない。しかし、個々の学生の成長という観点から見れば、全国平均で80%以上が合格する試験の合否そのものは、本質的な差異を生む指標とは言い難い。

毎年およそ1,000人の獣医師が国家資格を取得し社会へと巣立っていくが、従来の偏差値的評価軸に従えば、本学を含む私立大学の卒業生の多くは相対的に下位層に位置づけられることになる。

したがって、社会において上位10%に位置づけられる獣医師を輩出するためには、入学時の偏差値を超える学術的付加価値を在学中に涵養する必要がある。

以上より、私の教育目標は「国家試験に合格する獣医師」の養成ではなく、「科学的思考に基づき問題を構造化し、自律的に解決できる獣医師」の養成である。

### 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

私は2年次および5-6年次の2学年を担当しており、それぞれに明確に異なる教育目的を設定している。

2年次は初期段階の教育として、ボトムアップ型の基礎力養成を目的とする。獣医遺伝学では、最新の生物学的知見を紹介しつつ、それらが研究レベルの成果の蓄積によって構築され、やがて教科書的知識として体系化されるものであることを理解させる。これにより、将来的な研究室配属を見据え、獣医学・生物学が一方向的に受容する学問ではなく、研究の積み重ねによって更新され続ける動的な学問であることを実感させる。

また、獣医生化学実習では、今後の専門実習に備えた基礎的ウェット実験技術の習得を目的とし、実践的なトレーニングを行う。これら2科目を通じて、獣医師養成課程における学問的姿勢と基礎的スタンスを確立させる。

一方、5-6年次ではトップアップ型の高度化教育を目的とする。研究室において実際の基礎研究に従事させ、仮説設定、実験計画、検証、データ解析、外部発表に至るまでの研究プロセスを一貫して経験させる。さらに、学会発表や論文作成を通じて、進路にかかわらず求められるアウトプット能力の基礎的トレーニングを実施する。

#### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

獣医学特論および卒業研究において学会発表によるアウトプットを義務としている。

#### (2) ICTの教育活用

有

LMSを活用し、完全なペーパーレス授業・実習・ゼミを実施している。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

本授業（獣医遺伝学）および実習（獣医生化学実習）は、獣医学教育コアカリキュラムに準拠し、生命現象を分子・遺伝子レベルで理解するための基礎的能力の修得を目的としている。これらは臨床獣医学の基盤をなす科目であることから、単なる知識の習得にとどまらず、科学的思考力およびデータ解析能力の育成を重視した教育設計を行っている。

講義においては、アクティブラーニングを導入し、課題提示型の学習を実施している。具体的には、遺伝学的現象や分子機構に関するテーマを提示し、学生自身が関心に基づいて内容を深掘りし、整理・考察する機会を設けている。これにより、知識の受動的理解から脱却し、概念の構造的把握と応用的思考力の涵養を図っている。

実習においては、生化学的測定および分子生物学的手法の習得に加え、得られたデータの解釈と妥当性評価を重視している。各実習では、レポート作成を通じて、実験原理や測定系の特性を踏まえながら、「どのような前提でデータが得られているか」「どのような誤差や限界が含まれるか」を考察させている。これにより、実験結果を批判的に評価する姿勢と科学的リテラシーの向上を図っている。

### (2) 学生の理解度の把握

A

課題により理解度を把握している。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

課題により十分な自学自習を促している。

### (4) 学生とのコミュニケーション

A

対面とオンライン両方で丁寧な指導を実施した。また、単位未認定だった学生への来年度に向けた対応も実施した。

### (5) 双方向授業への工夫

B

課題のフィードバックを実施しているが、十分ではないため、さらなる改善を目指している。

### (6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

卒業論文・獣医学特論を通し、通年で問題解決型学習を行っている。また他の公的試験(放射線取扱主任者一種、TEIC、バイオインフォマティクス技術者認定試験 など)を受験させることで試験への順応性を高めた。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

コーディネーターを務める科目で学部の平均以上の評価であり、継続して実施したい。

### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

自由記述欄よりグループワークが苦手な学生からの評価が低いように感じる。

### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

レポート課題以外に個別の評価が可能な成績評価基準の策定を目指す。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

### (1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

研究活動を通し、“学力”と“思考力”を卒業時まで持続的に成長させることが重要であると考えている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組  
に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

複数の所属学生が学会発表に挑んだ。

## 7. 指導力向上のための取組 (FD研修参加等)

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

FDには時間が許す限り参加しているが、出張や研究遂行上の理由から参加できない場合があったが、今年度は動画配信などがあったため、十分に参加することができた。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

短期的な目標：ボトムアップを目指す

長期的な目標：研究が理解できる獣医師の輩出を目指す

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2026年4月

- ・ 授業シラバス
- ・ 授業評価アンケート
- ・ 6年生の就職状況
- ・ 学科会議資料における卒業論文ポスター賞投票結果
- ・ リサーチマップ (<https://researchmap.jp/masakinagane/>)